

# 第19回都道府県対抗男子駅伝を振り返って

男子監督 山崎芳喜（鯖江高校教諭）

今年のチームは、一般選手に米澤類(中国電力)、早川翼(トヨタ自動車)、窪田忍(駒澤大4年)の最強メンバーを擁して挑んだ。中高校生の力はここ数年では落ちるが、確実につないで一般選手で順位を上げるレース展開を想定していた。中高校生は年末年始の強化合宿や練習会で順調に練習ができ、体調管理もしっかりできていた。雪の影響も少なくよい状態で大会に臨めた。

レースは想定通りにはいかず、強力な一般選手の力をして30位前後の順位を20位台に上げるのが精一杯だった。アンカー窪田も5つ順位を上げたが、ゴールは23位だった。具体的な目標順位は設定していなかったが、毎年目標である「確実に10位台」を達成することができず、3年ぶりの20位台だった。平成15年から中高校生の強化の責任者として関わってきたが、今回の結果については責任を感じている。一般選手に頼ったチーム作りでは戦えないことを改めて思い知らされた。中高校生が弱ければ一般も弱くなる時期が必ず来る危機感を感じている。特に本県の場合、県内に実業団チームがないので、一般選手に大学生を起用しなければいけない。高校生の強化の影響は大きい。選手層の薄い本県が確実に上位の成績を収め、入賞を視野に入れて戦うには中高校生の強化は欠かせられない。今まで以上に地元中高校生の強化に全力を注ぎたい。今大会参加にあたりご支援いただいた多くの方に心より感謝したい。